



スクリーンを使用しての説明

点から、4月14日に飯田JCシニアの寺沢秀文氏をお招きし、中国勉強会が行われました。

この中では、中国の現状と日中関係、飯伊地方と満蒙開拓、満蒙開拓の語り継ぎ活動の必要性、日中友好活動の現状と課題、日中友好協会の組織、飯田日中友好協会における活動例、中国児童支援とその背景、日中友好活動の今後に向けて、などの説明を受けました。

歴史認識の違いや、政治的問題などある中で今回の統一事業で中国を学び、知り、中国を感じ触れてくる事で、魅力ある人の素材を発見してきてもらいたいと感じました。



想定されるリスクについて (HT委員会田中寿君)

特集

あのときの決断…そして今

今月の特集は、夢企画委員会 倉沢孝平君です。現在、体の具合があまり芳しくないようですが、パワフルさは今も昔も健在です。それでは、お願いいたします。



夢企画委員会 倉沢孝平

私の両足首は『壊死』です。痛風と言われますが『壊死』が現在の病名です。



判明したのは昨年12月4日。あまりの痛みに忘年会も欠席となり無念でいる中、病院を紹介してもらい病院の中まで付添ってくれた平栗君には感謝している。進行が進めば人工関節・最悪切断となるようだ。この痛みを感じ始めたのは95年位だったと思う。消防団の大会の練習中にある動きをすると痛みが走る。「一体、どうしたんだあ？」と思っただけの痛みの激しさを和らげることしか考えつかなかった。それから今日まで、痛みだす間隔は確実に短くなり嘘だと思っても知れないが365日の内、まともに生活できるのは60日あれば多いくらいだ。

私は昔から無理をするところがある。それは全てにおいてである。ストレス耐性が普通の人より高いので私を見てそうは感じないかもしれない。無理をする理由は至って簡単、「反逆」である。これをどこか中心において今まで生きてきたと思う。別に格好つけて書く気もないが事実がそうだから仕方がない。小学生の頃の受けた理不尽な暴力、気がつけば中学生の頃には自分が暴力を振るう毎日。暴力によって全て表現してきた。私以上に他人の顔を蹴り上げた奴はそうはいないだろう。今の脚も罰が当たったと思えば悩むことなく気楽にすむ。

人にはいろんな奴がいる。大きな声で自分を表現できる奴もいれば、その逆もいる。社会的地位がなくても立派に家族を守っている奴もいる。みんな一緒である。違うというならそれは「お前の持っている物差しが違う」それだけである。世界は広くて面白い、生きる場所なんかどこでもいい。弱いもの虐めをする日本はどこかで……続きを書くことすら馬鹿らしい。

20歳前後の頃、永代橋の交差点で自動車事故に遭遇した。加害者も保険屋も私の前から逃げた。理由は「君が怖いから」だと聞いたときは愕然とした。それから飯田では笑いたくなくても笑うように心がけるようになった。しかし、それももう辞める、メンドクサイ。自分の脚なんてどうなっても気にしない。私はしなければいけないことがある。私の代でそれをしなければ飯田にいる意味はない。誤解を招こうが私は気にしない、1人だけ判ってくれる奴がいればそれでいい。

JCにいるのは「罪」と感じる時もある。しかし「罪」と「功」は背中合わせである。人生なんて攻守が逆転するのが常である。